

## 1月の窓

新年あけましておめでとうございます。今年が、皆様にとって素晴らしい1年となることをお祈り申し上げます。

日本の官公庁や企業では、正月三が日が休みとなるところが多いようですが、最近では、コンビニ以外でも元旦から営業している商店も多く、年末年始の休みもなく忙しいという方もおられるものと思います。「正月」を調べてみると、本来は旧暦1月の別名で新暦の1月を意味することもあり、現在は「三が日」または「松の内」という意味で使用することも多い、とありました。松の内は、松飾りを飾っておく間の意味で、元旦から7日まで、地域によっては15日までを指すことが多いようです。

元旦の正月に対して、1月15日を小正月と言います。小正月には、豊作祈願などの農業に関連した行事や家庭的な行事が行われ、今も様々な行事が残っています。「どんど焼き」や「左義長」と呼ばれる小正月の火祭りもその一つで、三本の青竹や杉の丸太を櫓に組み、正月の飾りや書き初めで書いた紙などを積み上げて炊き上げます。私が子供の頃も行われていましたが、餅を焼いて食べるのが楽しみでした。小正月やどんど焼きを詠んだ俳句も多くあります。

**羽子板に よほど疵<sup>きず</sup>あり 小正月……………遠舟**

正月を過ぎて小正月の頃になると、羽子板も疵だらけになったのでしょうか。

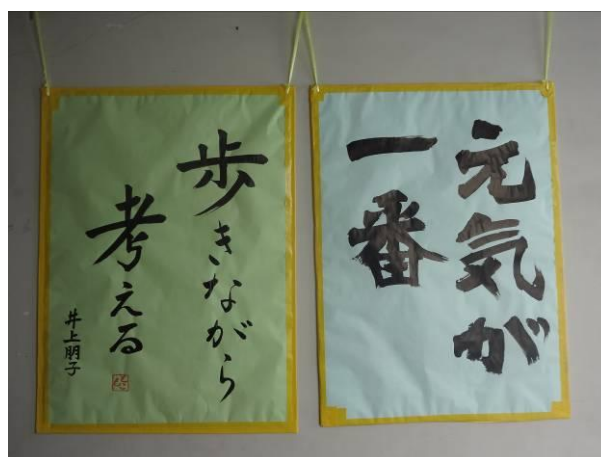
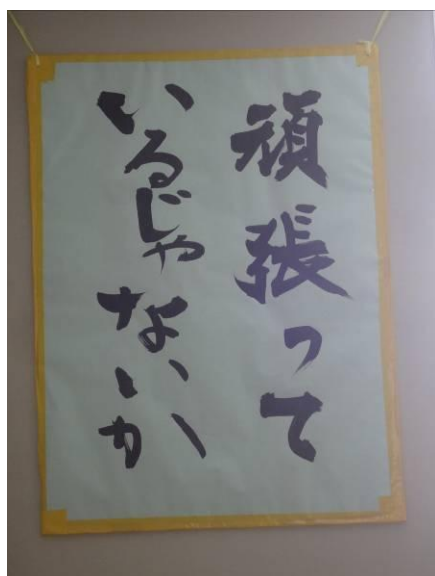
**どんど焼き どんどん雪の 降りにけり……………一茶**

どんど焼きの炎に降りしきる雪を詠んだものです。

すでに新年となりましたが、12月の学校の様子などを少し紹介します。

本校は、二学期制をとっているため、12月上旬に後期中間考査がありました。三学期制ならば、二学期の期末テストの時期になります。この考査が終わると、毎年3年生は大学入試センター試験に向けての演習を開始します。今年の大学入試センター試験は1月17～18日に実施され、本校からは3年生231名と予備校等で学習している卒業生も受験します。今年の3年生からは、数学と理科の2教科については新しい学習指導要領に対応した試験が実施されることになり、従前の学習指導要領に基づく教育課程を履修した卒業生に対して、経過措置が講じられることとなりました。具体的には、理科の問題冊子を新・旧教育課程別に分冊した上で、試験室も新・旧教育課程別に分割して受験者を割り当てることになりました。

昨年までは、本校3年生は全員が山形大学小白川キャンパスでの受験となっていました。こうした措置にともない、今年の3年生の約三分の二は山形大学での受験となり、残り約三分の一は、県立保健医療大学での受験となりました。生徒にはすでに連絡してあるので、大きな混乱はないと思いますが、私たち教職員も山大キャンパスと保健医療大キャンパスで分かれて激励することになりました。3年生の廊下の檄文も、センターテストに向けての激励にかわりました。

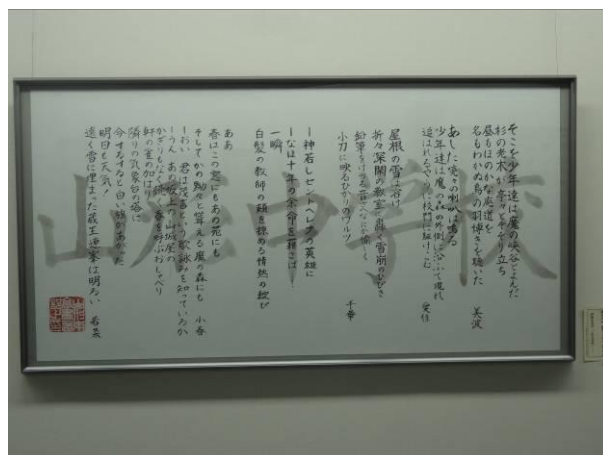
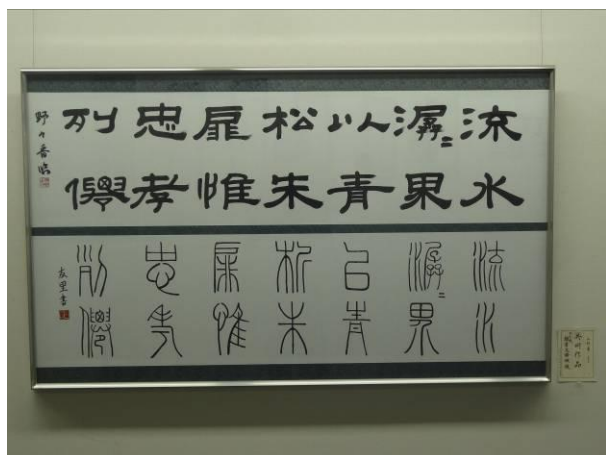


12月は、本県スポーツ界にとってうれしいニュースがありました。12月7日、J1昇格をかけたプレーオフ決勝で、モンテディオ山形はジェフ千葉に3-2で勝利し、来シーズンのJ1復帰が決まりました。また、13日に開催された天皇杯決勝では、惜しくもガンバ大阪に敗れましたが、立派な準優勝でした。翌14日には、文翔館前広場で「モンテディオ山形J1昇格・天皇杯報告会」が開催されました。雪の降る寒い天候の中、多くのサポーターが集まり、モンテディオからも、予定の入っていた一部の選手を除く選手とスタッフが来ていただきました。写真は、選手・スタッフ一同と、挨拶をされる石崎監督です。



12月に入ってから、村山地区の学校でインフルエンザの感染者が急増し、本校でも、一部のクラスに感染者が多くみられたことから、一部の学級で学級閉鎖の措置をとらせていただきました。そのため、12月19日に予定されていた全校集会も中止としました。例年、この集会では、今年度体育または文化活動で顕著な活躍をした部や個人に贈られる松田杯等の授与を行っているのですが、今年度は1月下旬に表彰することとしました。なお、運動部の中で年間を通して最も活躍がめざましい部に授与される松田杯はフェンシング部に、個人として体育活動の成績優秀な者に授与される鈴木杯は、フェンシング部の門脇璃子さんと決定しました。また、文化部のうち活動が顕著で優秀な成績を収めた団体に授与される矢野牌は演劇部に、生徒会や文化部等で活動の顕著なものに授与される駒草杯（旧千歳会文化賞）は3年の笹原冴瑛子さんと決まりましたが、詳細は「山東通信」の12月号に載っております。

12月16日から22日まで、山形県芸文美術館（ナナビーンズ）で「村山地区高等学校文化連盟書道展」が開催されました。毎年この時期に開催されており、今年も村山地区の高等学校15校の書道部の生徒の作品の他に、顧問の先生の作品も展示されていました。各校書道部の生徒が交代で受付をしており、私が行った時はたまたま本校の生徒が受付をしていました。次の写真は本校生徒による共同作品ですが、右の作品は本校卒業生の詩人・神保光太郎の「山形中学校」という詩を書いたものです。この詩は、以前山形新聞でも大きく取り上げていただいたことがありますが、「どうしてこの詩を選んだのか」と生徒に聞いたら、「10月の創立130周年記念式典の時の資料で読んだから」とのことでした。毎年の創立記念日で、本校の先生が同窓生や学び舎にまつわる物語をまとめて紹介しているのですが、今年の資料にこの「山形中学校」の詩があったのを、私は忘れていました。生徒はしっかりと読んでくれていました。





最後に、今月は「出羽国分寺薬師堂」を紹介します。薬師堂は、先月紹介した山形県護国神社のすぐ西隣にあります。出羽国分寺は天平の頃、聖武天皇の命を受けた行基によって開山されたと言われておりますが、現在の本堂は、旧宝幢寺（現もみじ公園）の本堂を移建したものです。「6月の窓」でも紹介しましたが、「植木市」や「薬師祭」の名で親しまれている「薬師祭植木市」は、この国分寺薬師堂の祭礼で、熊本市・大阪市の植木市と並び日本三大植木市の一つとされています。写真は、国分寺薬師堂の看板と本堂です。この写真は、12月下旬に撮影したのですが、本堂前左側にあるテントの骨組みは、初もうでの準備のためと思われます。次の写真は、本堂の西側にある池です。

先月、護国神社の絵馬を紹介しましたが、年末には馬から今年の干支である羊の絵馬に代わっていました。最後の写真がそれです。年末の山形新聞でも紹介されていたので、ごらんになった方もいらっしゃると思います。

